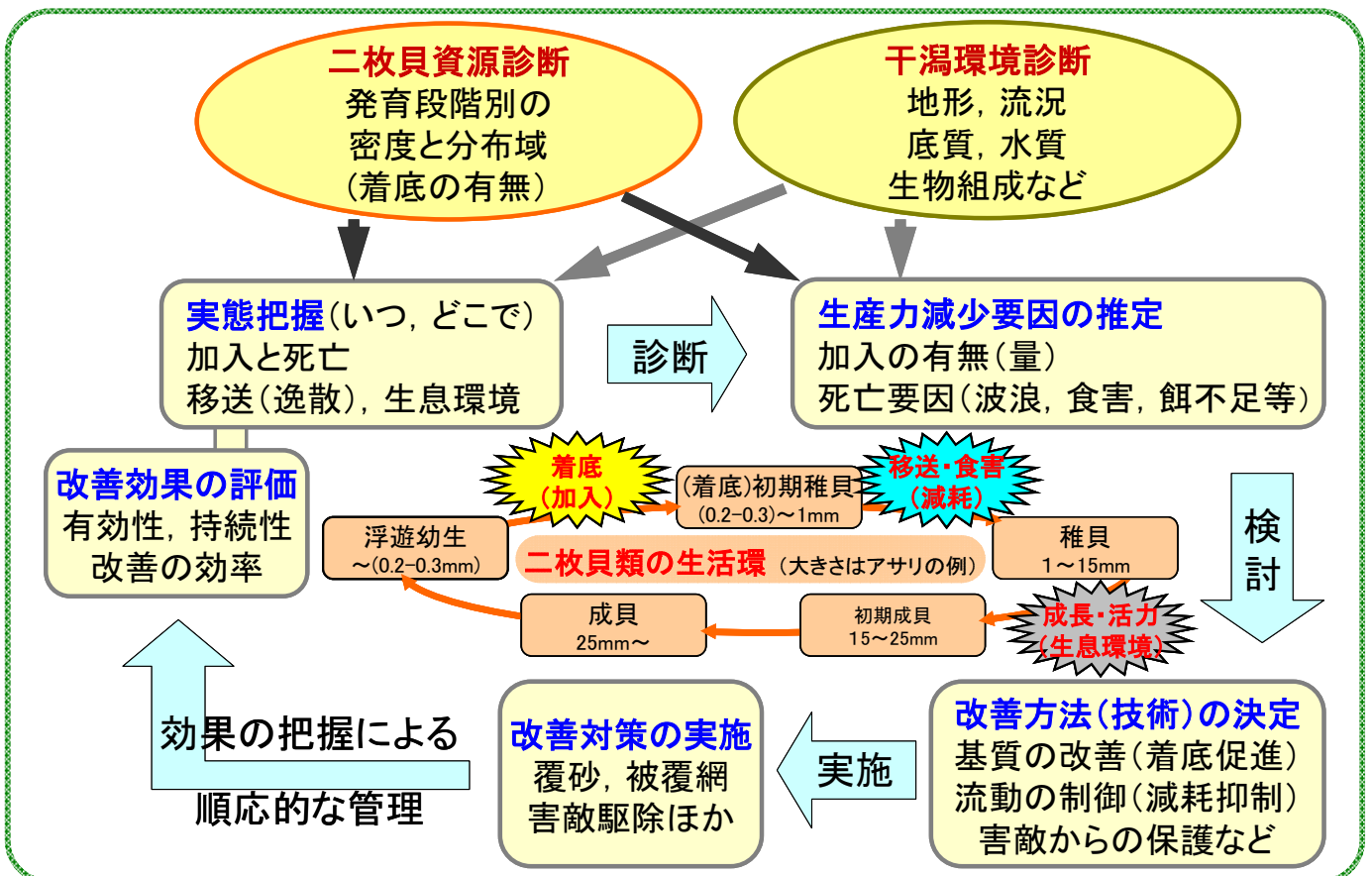


干潟生産力改善のためのガイドライン

【ガイドラインの特徴】

- ① 平成17～19年度にかけて「藻場・干潟生産力等改善モデル事業」を実施。その中で、これまで現場で利用できるような干潟の状況診断と対策手法を系統立ててまとめられたガイダンスが無かったことから、干潟の機能回復、生産力改善にかかる既往の調査、研究等で得られた知見をとりまとめるとともに、生産力改善のための要素技術及び効果的な管理技術に関する検証を行い、本ガイドラインを作成。
- ② 干潟は、二枚貝生産の場としてだけでなく、そのような漁業を通じての環境保全、生物多様性の保全など多面的な機能を有していることから、本ガイドラインでは、干潟のこのような生産力に着目し、東京大学日野明德教授を委員長とする検討委員会の助言を得て、干潟生産力改善のための考え方や対策を、具体的な事例を取り入れながら、科学的な視点からできるだけわかりやすく記述。
- ③ ガイドラインの構成は、干潟環境の状態と二枚貝資源状況の実態把握（診断結果に問題があれば）干潟生産力減少要因の推定 改善対策の実施及び効果の評価（最初に戻る）という順応的管理の考え方を踏まえた内容を網羅。

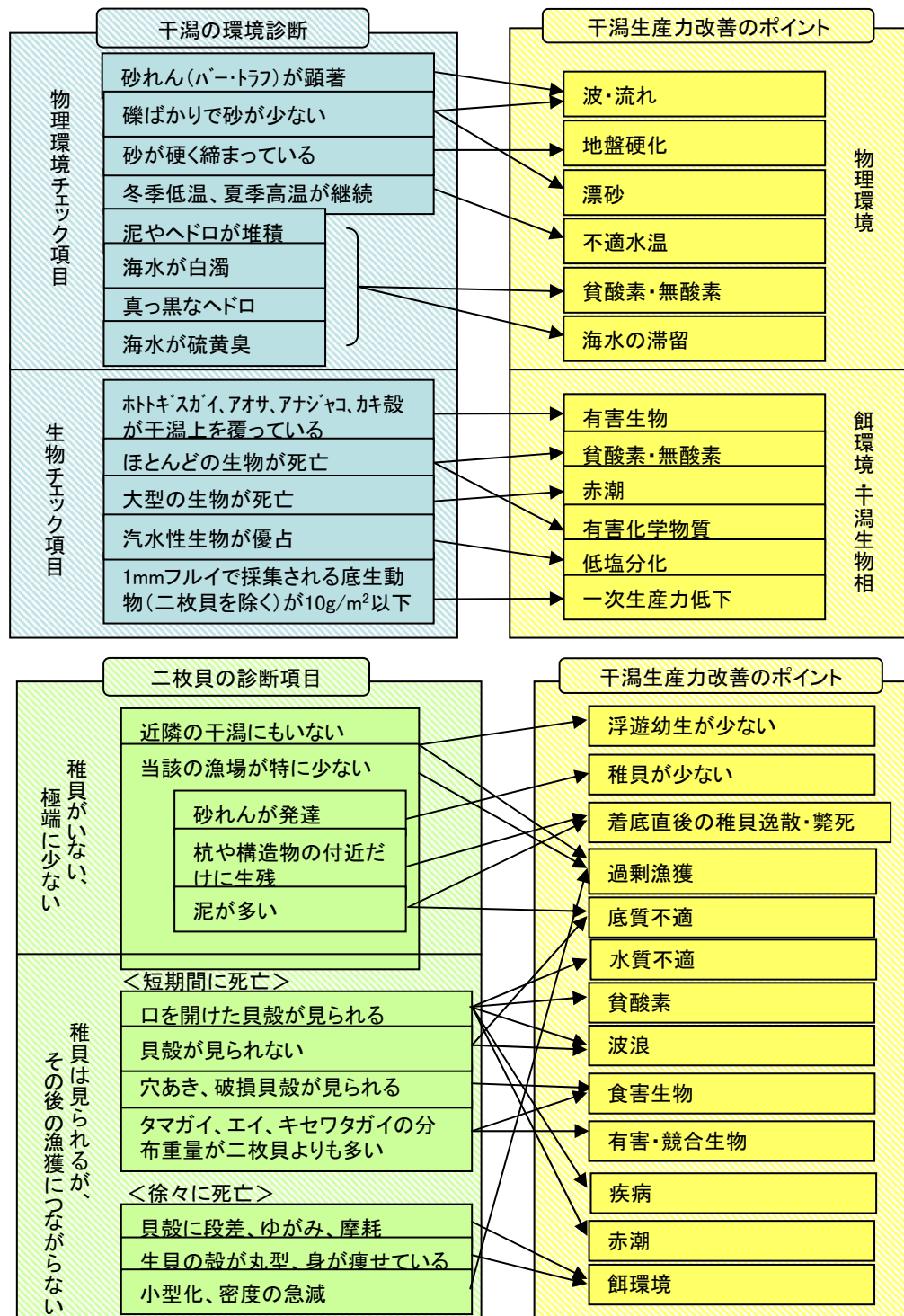


ガイドライン目次

- 1章 ガイドラインの主旨
- 2章 干潟とは(干潟概観、干潟の生産力とは、干潟における二枚貝生産の変遷と現況)
- 3章 干潟環境及び二枚貝(アサリ)の状態把握方法
- 4章 干潟及び二枚貝状態診断指針(干潟生産力診断チャート:干潟環境編、二枚貝編)
- 5章 改善のための具体的対策手法
- 6章 取組事例(具体的な漁協の取組事例、具体的な対策手法の事例とその効果)

●『干潟や二枚貝がどういう状態にあるのかを把握し、診断する方法』を解説

干潟の物理的・化学的な特徴を解説し、干潟の生物相や餌環境を把握する調査手法を示している。また、二枚貝については生態の詳細を概説するとともに、各発達段階の分布量を把握する手法を示している。



● 干潟や二枚貝の状態診断に対し、どのような対策に取り組みばよいかを解説

例えば、

①干潟環境の改善

底質環境が悪化する要因は、砂の移動、流失による干潟面積の縮小や変形、泥堆積による増殖場の機能低下、過大な増殖によるアサリ餌料の供給・消費バランスの崩壊、など様々な要因が複合的に影響している。覆砂や耕耘、作滞などの対策を行い、底質環境の改善を図る 等。

②資源管理・漁業管理

漁業者が主体となり干潟の利用管理の適正化を積極的に行うことにより、干潟の資源状況や漁獲変動、漁場の状態把握等の確認と情報のフィードバックによる漁場機能の再生、という順応的管理が有効 等。

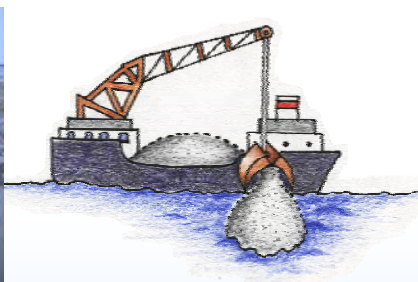
③場の特徴に合った干潟利用

各干潟において、親貝集団や幼生ネットワーク(干潟間の二枚貝幼生の相互補給)の保全、また、近隣干潟を含めた水域全体の生息環境の保全を図ることが重要 等。

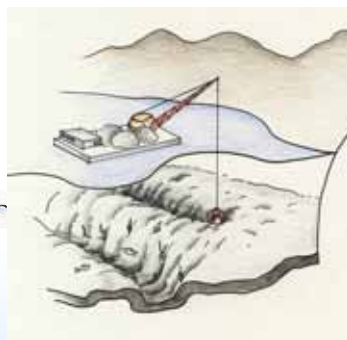
流れが弱く、底質が悪化



耕耘により酸素供給

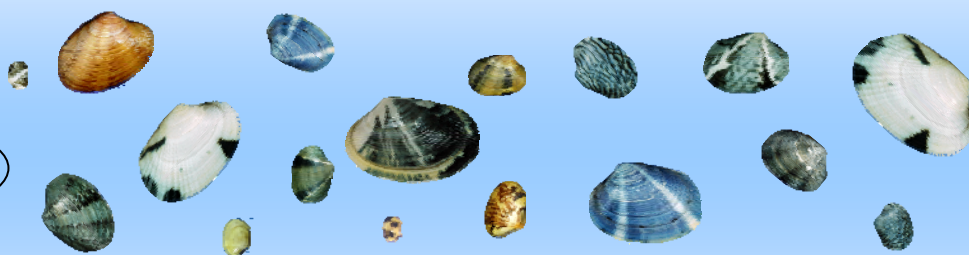


砂をかぶせ(覆砂)、ヘドロを砂質に



水路による水交換の促進(作滞)

好適環境



流れが強く、稚貝の着底等が困難

フェンスや柵、竹柴の設置による波浪の軽減



礫の散布による底質の固定



網掛けによる生物の着底

